



## 伝統を守る あったかい心

### 心 あ つ た か ニ ュ ー ス

NMCAA  
NO3

創業百三十五年の三味線の最大手メーカー、東京和楽器が八月に廃業することになった。昔は趣味で三味線や琴、箏をやる人がいたが、今では少なくなっていることに加えて今回のコロナ禍だ。三味線市場の五割とも六割ともいわれる同社が消えてしまうと、どうなってしまうのか。伝統芸能事情に詳しい東京文化財研究所の前原恵美・無形文化財研究室長は「新型コロナウイルス禍で中止、延期された公演が再開され、一斉に三味線を新調、修理しようとするのが集中しても、即座に対応するのが難しくなるかもしれない」と懸念を示す。演奏家、ホールなどの施設、楽器の製作者・販売者が揃って活動再開の準備ができていないと、公演を軌道に乗せるのは難しいのではないかと危惧し、「歌舞伎や文楽、長唄・常磐津・義太夫節などの音楽にも影響が及ぶ可能性がある」と指摘した。また同社が所有する百台以上のオリジナルの機械は

三味線を熟知する社員による設計、製作で、前原室長は「同種類の三味線でも、要望に応じて機械部品の着脱や調整、経験に基づく機械操作で対応している」と評価。廃業となれば、こうした貴重な機械も使われなくなってしまう。そんななか、東京和楽器を支援するためのプロジェクトを立ち上げた8人組のロックバンド「和楽器バンド」が集まった募金など約800万円を同社に届けた。開催したライブで、会場にたるを設置して観客に協力を呼び掛け、集まった約150万円のほか、オンラインでの募金、ライブの収益の一部などを合わせた計約800万円を寄付。東京和楽器は8月15日での廃業を決めていたが、東京新聞はじめ多くのメディアが窮状を報じたこともあり、国内外から注目が入り、今年いっぱい稼働する見通しとなった。

東京和楽器の代表は、「想像もつかない額でびっくりしています。責任を感じています。これから三味線(需要)を広げる行動を起こしていきたい」と意欲を見せた。東京和楽器の廃業は、歌舞伎俳優がツイッターに上げたり、テレビやラジオなどでも報じられたりしているほか

和楽器バンドの支援はSNS上で大きな反響を呼んでいる。文化庁の担当者は東京和楽器廃業の報道は承知しているとした上で、「三味線は歌舞伎や文楽などに欠かせない邦楽器。伝統芸能の実演を支える技術を保護することは大切であり、何ができるか検討中」と語った。加えて「長期的需要を喚起していくことも重要」と、需要の低迷が続いている現状を変えていく必要性にも言及した。東京新聞より)

#### 編集後記

伝統を守りたい気持ちには、大きな力となるものがわかりましたし、この会社が人の支援を受けて前向きになっただけでなく、人を元気にするのは、人だなどと思え感動しました。